

豊明市行政評価制度「施策」評価票

施策評価票番号

37

1 施策の概要

1-1 施策の名称	文化・芸術活動			基本施策コード	4-1-2
1-2 担当	部	教育部	課 又は施設	文化会館	評価票作成者 館長 鈴木英樹
1-3 総合計画における施策の体系	①節	教育文化「個性ある文化と豊かな人間性を育むまちづくり」			
	②項	生涯学習の推進			
1-4 施策の目的	市民に身近にで親しまれる文化会館となり、気軽に訪れることが出来る施設を目指します。				

	平成22年度評価 (前期の成果)	平成27年度評価 (全期間の成果)
担当課評価	A	
総合評価	A	

● 施策評価の判定基準

- A : 施策の目的を効果的に達成しているため継続する
- B : 施策推進の実手法等に改善の必要がある

1-5 総合計画における基本成果指標	基本成果指標名	前期（平成18年度～平成22年度）			全期間（平成23年度～平成27年度）			指標の定義
		目標値（単位）	実績値（単位）	達成率（%）	目標値（単位）	実績値（単位）	達成率（%）	
①	文化施設の数や設備に対する満足度	70（%）	70.2（%）	100（%）	75（%）			市民の評価から見た、文化施設の充実度を表す指標
②	市主催による芸術文化活動に対する満足度	75（%）	72.8（%）	97（%）	75（%）			芸術文化活動に参加された方々からみた満足度を表す指標
③								

2 施策の担当課による評価結果

評価の内容	今後の環境変化を踏まえた課題認識	既存事業の構成や優先順位の考え方、新規事業の必要性の考え方	施策の担当課としての単年度の取り組みの自己評価
平成18年度	老朽化した設備を、利用者の満足に応える。	設備更新を、計画的に進める必要がある。	ボランティア組織の立ち上げが19年度より実施できるようになった。
平成19年度	老朽化した設備を、利用者の満足に応える為設備更新をする。	〃	ボランティア組織による自主事業の企画運営を20年度実施する。
平成20年度	少子高齢化社会、団塊世代の大量退職を控え、市民の文化活動に対する文化会館への期待の変化を受け止める。	限られた財源の中で現在の設備を維持・更新（当面は、老朽化した音響設備の更新。）し、市民が期待する文化活動の推進に努める。	財政状況が厳しい中で、音響設備更新の足掛かりができたこと及び充実した自主事業が実施できたことは評価したい。
平成21年度	〃	〃	財政状況が厳しい中で、維持管理に係る委託料の削減ができ、音響設備更新の理解が得られたこと及び充実した自主事業が実施できたことは評価したい。
平成22年度	高齢化の拡大や団塊世代の大量退職により市民の文化活動への期待が高まる可能性がある。限られた事業費の中で期待される事業を全て行うことはできないが、新規事業として市民美術展を次年度以降実施できるよう検討したい。また、今年度から文化協会やシルバー人材センター会員による文化会館環境整備ボランティア活動がスタートしたことは、本施策の目的である「市民に身近で親しまれる文化会館」に一歩近づけることができたのではないかと考える。		
平成23年度	市民美術展の検討委員会を立ち上げ、平成24年度に美術展の開催をすることとなった。また、ボランティア（文化協会・シルバーセンター）による、館内の除草も軌道に乗り、多くの方の参加を見ることとなった。		
平成24年度	第1回目となる市民美術展を開催した。また、文化会館としては初めてとなるロビーコンサートも平成25年3月30日開催予定である。入場無料にて市民が芸術・文化に親しむことのできる機会を増やすことができた。		
平成25年度			
平成26年度			
平成27年度			

